

マーケット概況（2023年10月）

10月の債券相場は、債券先物12月限が前月末比2銭安の144円94銭で取引を開始した。その後、5年超10年以下の買入れオペを追加で4日に行うとの通知があり、3日の10年債入札を順調に通過した。米国の雇用関連指数が市場予想を上回り米国債利回りが大幅に上昇すると一時売りが優勢となったが、FRB高官が相次いで金融引き締め長期化へ慎重な姿勢を示したことや、中東情勢の悪化から買いが入り、債券先物は145円63銭まで上昇し、10年372回債の利回りは0.745%まで低下した。しかし、中東情勢の悪化懸念がやや後退したことや20年債入札が低調な結果となったことで債券相場は反落した。さらに連合が2024年の春闘で5%以上の賃上げを要求する方針を発表したことや米国長期金利が2007年7月以来となる5%台まで上昇したことを背景に下げ幅を拡大した。5年物共通担保資金供給オペや5年超10年以下、10年超25年以下の臨時オペが通知され反発する場面もあったが、日銀の金融政策修正観測の高まりから水準を切り下げ、月末に債券先物は143円57銭まで下落し、10年372回債の利回りは0.955%まで上昇した。日銀金融政策決定会合では長期金利が1.0%を一定程度超えることを容認するYCCの運用柔軟化が事前の予想通り決定された。

<短国市場>

3M金利は、前月末には-0.308%で取引を終えたが、足元金利の上昇に伴い売り優勢となった。しかし、投資家需要を背景に概ね-0.20%での推移となった。6日の3M1187回債入札は、最高落札利回りが-0.1955%と前回債から上昇してスタートし、その後は-0.18%台の入札が続いた。最終的に3M1191回債は、-0.203%で取引を終えた。6M1186回債入札は、前月とほぼ同水準の最高落札利回り-0.1494%と好調な結果となり、入札後は-0.171%で取引された。1Y金利は、前月から続く投資家の買いが見られ、一時-0.105%まで金利低下した。19日の1Y1189回債入札は前月とほぼ同水準の最高落札利回り-0.0208%で決着したが、セカンダリーでは再び投資家需要から強含み、-0.054%まで取引されて終えた。

<一般債市場>

10月の定例地方債10年債は金利の先行き不透明感からスプレッドタイト化への警戒感があったものの国債利回りの上昇を背景に前月対比1bpタイト化の国債カーブ対比+9.0bp、5年債は前月対比2bpタイト化の同+10.0bpで条件決定された。公共債セクターの新発債に対する一定の需要はある一方、金融政策修正への思惑から超長期ゾーンや既発債の需給は緩み、スプレッドのワイドニング傾向が進んだ。SDGs債関連では、福井県が初の10年グリーンボンドを起債したほか、阪神高速が道路会社債として初のサステナビリティボンドを起債した。社債発行額は11,430億円と前月から大幅に減少、5ヵ月ぶりに前年同月を下回った。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#372	0.760(3日)	0.745(12日)	0.955(31日)	0.950(31日)
#371	0.775(2日)	0.735(16日)	0.945(31日)	0.945(31日)
#361	0.575(2日)	0.505(12日)	0.700(31日)	0.700(31日)
#161-#162(5Y)	0.325(2日)	0.305(10日)	0.465(31日)	0.465(31日)
#185-#186(20Y)	1.495(2日)	1.495(2日)	1.730(31日)	1.720(31日)
#1180-#1186 TDB(6M)	-0.170(5日)	-0.180(5日)	-0.170(5日)	-0.171(6日)
#1185-#1191 TDB(3M)	-0.235(6日)	-0.235(6日)	-0.200(27日)	-0.203(27日)